

**TOYO TIRES**

# サステナビリティ経営の方針について

— 中長期の価値創出に向けて —

2022年2月15日

**TOYO TIRE 株式会社**

**1. 当社のめざすサステナビリティ**

**2. TOYO TIREグループのマテリアリティ**

**3. マテリアリティを軸にした挑戦（価値創出と課題解決）**

**4. サステナビリティ推進サイクルとガバナンス**

**5. 当社変革の系譜とサステナビリティ**

## ◆ TOYO TIREグループのサステナビリティ方針

「企業活動上のあらゆる働きがすべて社会と将来につながっている」という自覚を強く持ち、事業を通じた社会課題の解決、社会的価値の創出によって、自らの存在意義を追求していきます。

5つの視点を携えて取り組むことで、サステナビリティを事業経営に統合していきます。

### ① 理念に基づくTOYO TIREらしさの追求

あらゆるサステナビリティテーマにおいて常に理念に接続して捉え、判断し、当社らしい独自性の追求につなげる

### ② 中長期目線の推進

会社にもたらす機会・重要となるリスクを、中長期的な時間軸からマテリアリティとして明確化し、取り組む

### ③ 持続可能な社会への貢献

“社会の持続可能性 = 事業成長の前提条件” という認識のもと、全企業活動を通じてグローバルに社会課題の解決に努める

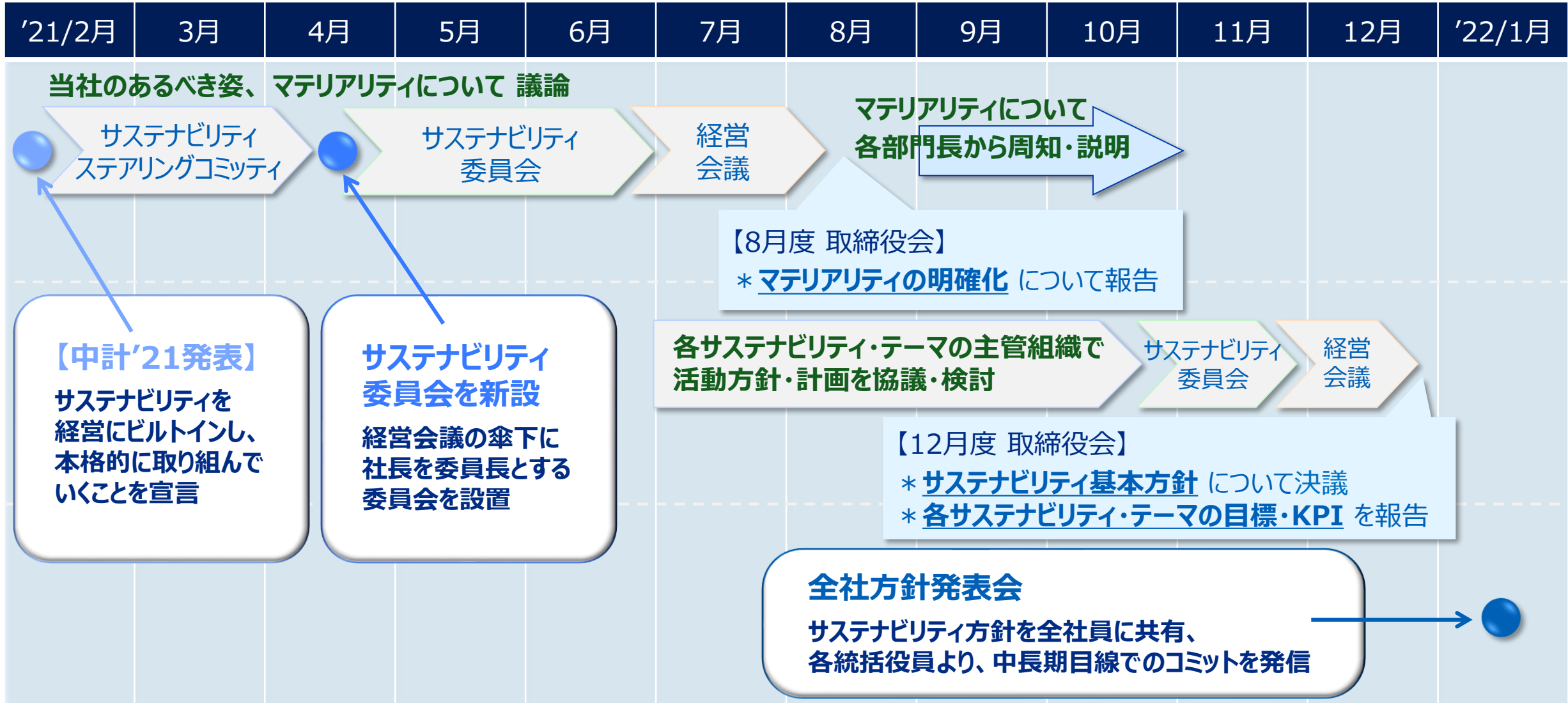
### ④ 価値創造による好循環

製品・サービスの価値を高め、得た利益をさらなる価値創造の源泉に投資し、価値の増幅サイクルを確立する

### ⑤ ステークホルダーとの連携・協働

サプライチェーンの上流・下流と連携・協働し、国内外の関連機関・団体と協調を図り、対話を通じて企業価値を向上する

## ◆サステナビリティ経営の考え方、取り組み方の整備と推進準備を完了した2021年



## ◆ TOYO TIREの企業活動の下地にESG基軸を敷き、事業とサステナビリティの一体的な推進をめざす



※各ページの取り組み説明には該当するESGフラグ（アイコン）を付記しています。

### ◆事業を通じて、持続可能なモビリティ社会の実現・豊かなモビリティライフの創造に寄与する

#### 価値創出

当社の製品・サービスを通じて顧客や社会に対して提供するユニークな価値

1 持続可能なモビリティ社会の実現に寄与する



2 豊かなモビリティライフを支え、創造する



#### 価値創出の基盤

価値創出を支える基盤

3 多様な人財の挑戦と働きがいを創出する



4 次世代モビリティの技術革新を続ける



#### リスクマネジメント

価値創出の実現にあたり全事業活動において疎かにせず責任をもって遂行していく事項

5 全企業活動における脱炭素を追求する



6 サプライチェーンのサステナビリティを促進する



7 モノづくりの根幹（品質と安全性）を守り抜く



## ◆中長期の価値創出に向けて

価値創出シナリオ

### モビリティの環境負荷低減

- モデルチェンジごとの低燃費性能のグレードアップ
- 軽量化
- EV対応商品強化

### 安全・安心なモビリティ

- 製品ライフとWET制動の両立
- 摩耗診断サービス

マテリアリティ

1



[ 持続可能なモビリティ社会 ]

- 拡大・多様化するEV市場 -

マテリアリティ

### 2 多様なモビリティライフ

【走りの愉しみ】

独自のEV対応戦略

- SUVやピックアップ車のEV化に対応する技術開発
- 北米市場動向を捉え、差別化したSUV・CUV商品開発

E  
S

支える基盤

マテリアリティ

### 3 多様な人財の挑戦と働きがい

- ・多様な人財が有機的に協働し、働きがいを持って成長・活躍する仕組み
- ・個性と質と能力を極める育成システム



S

マテリアリティ

### 4 次世代モビリティの技術革新

- ・環境や電動車特有の技術確立
- ・環境配慮技術 + 嗜好性の融合
- ・新素材・サステナブル材料



E

## ◆創出する価値を守るためのリスクマネジメント

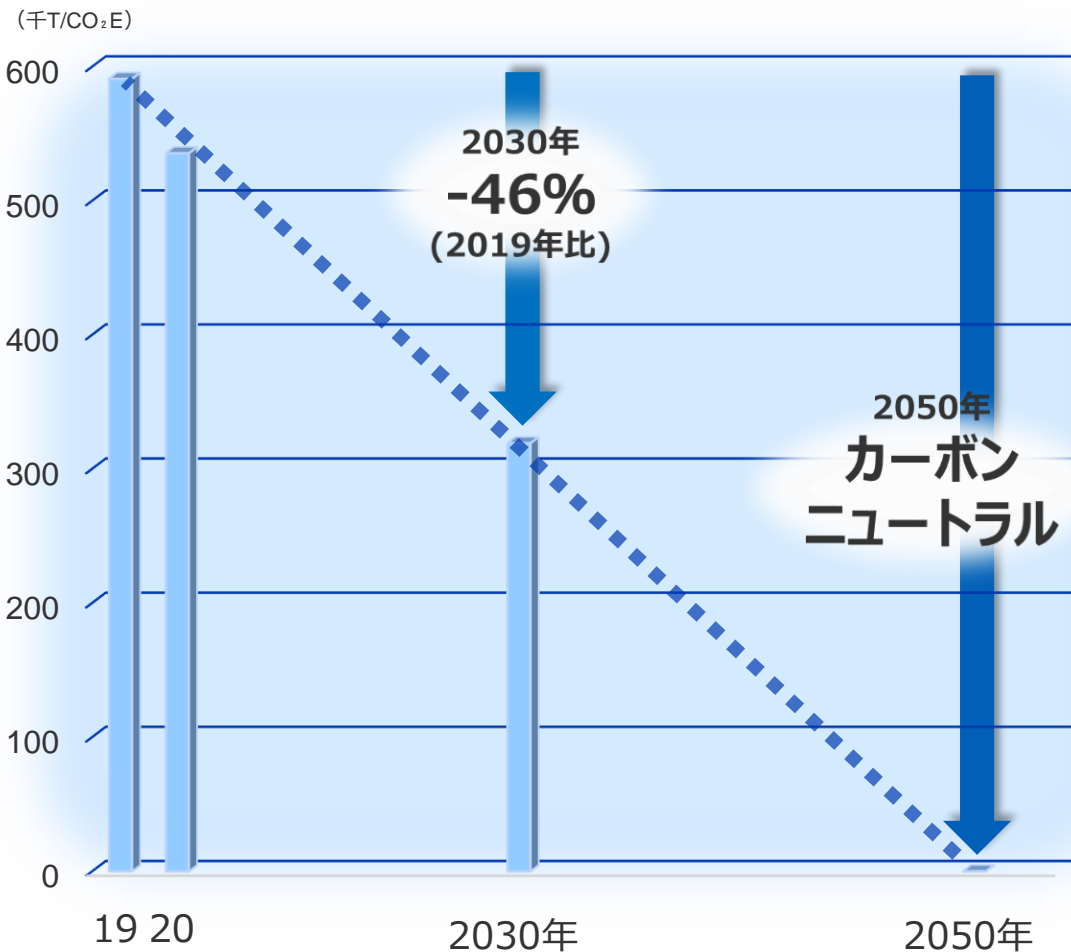
マテリアリティ

### 5 【脱炭素】

Scope1+2

【 中長期CO2排出削減目標 】

2030年に2019年度比46%削減、2050年カーボン・ニュートラルをめざす。各機能が連携し、エネルギー調達先とも協働しながら脱炭素化を進める。



#### 生産

- ・エネルギーマネジメント
- ・省エネルギー
- ・工法、設備の更新

#### 調達

- ・フレキシブルなエネルギー調達

#### コーポレート/環境

- ・環境投資基準/インターナルカーボンプライシング
- ・再生可能エネルギー導入計画

#### DX

- ・データ活用による効果的・効率的な取り組み





## ◆創出する価値を守るためのリスクマネジメント

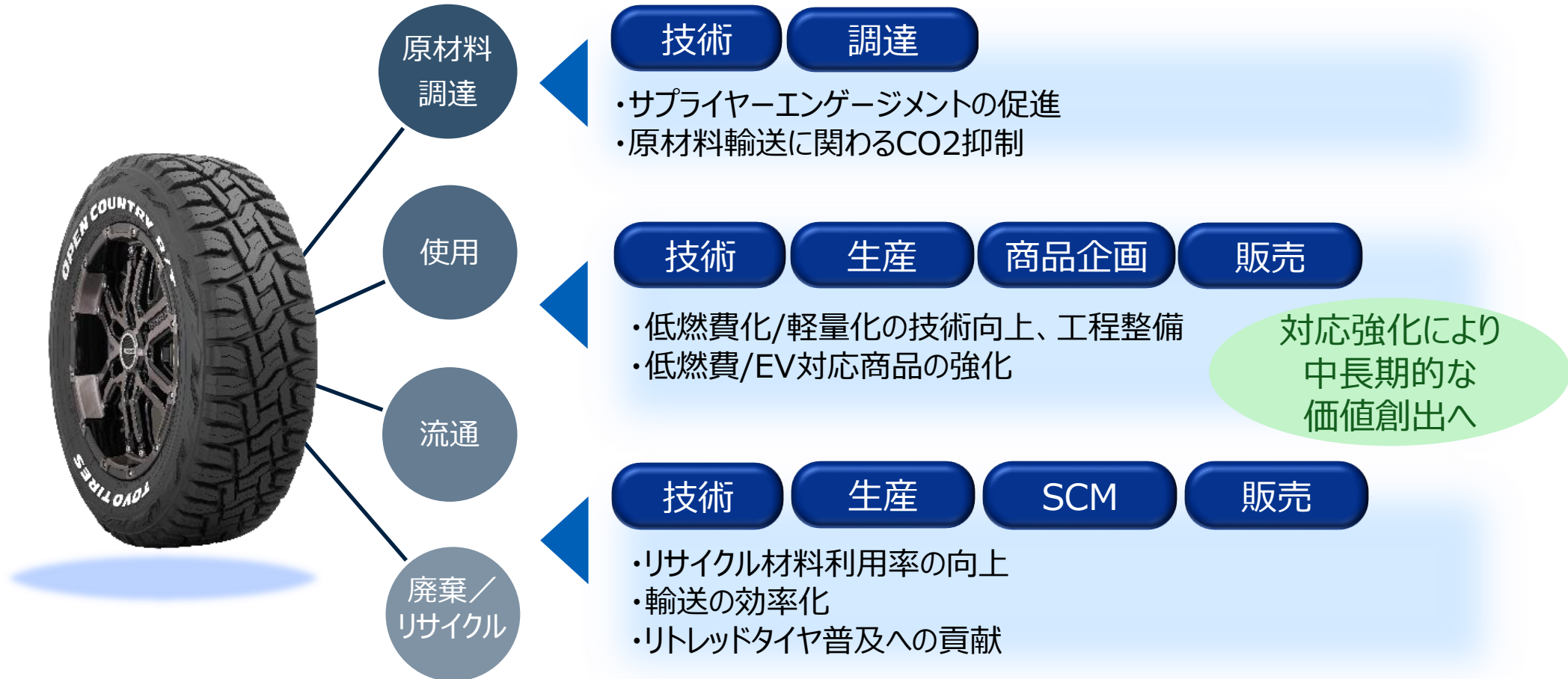
マテリアリティ

### 5 【脱炭素】

Scope3

【 タイヤ1本あたりのCO2排出量 】

2030年時点において2019年度比20%の削減貢献をめざす。  
技術革新/商品強化、サプライチェーンでの連携を進める。



#### ◆創出する価値を守るためのリスクマネジメント

マテリアリティ

#### 6 【サプライチェーンのサステナビリティ】

原材料調達における環境・社会リスクに対応し、健全で強靱なサプライチェーンをつくる。

調達

#### サプライチェーンマネジメントの強化

- ・グローバルでのサプライヤーの一元管理とサプライチェーンの可視化
- ・サプライチェーンの環境・社会リスク評価にもとづいた責任ある原材料調達の促進

#### 持続可能な天然ゴム調達

- ・GPSNR\*の原則と「持続可能な天然ゴムの調達方針」に則った、サプライヤーとの協働による持続可能な天然ゴムの利用促進

\* ) GPSNR : 持続可能な天然ゴムのためのグローバルプラットフォーム  
Global Platform for Sustainable Natural Rubberの略



マテリアリティ

#### 7 【品質・安全性】

バリューチェーン全体で製品の品質・安全性を高める。

品質

生産

技術・DX

販売

- ・工程内品質の可視化によりプロセス保証体制の確立
- ・市場末端までトレーサビリティが可能な個体管理システム
- ・ユーザー体感型安全啓発プログラムの充実

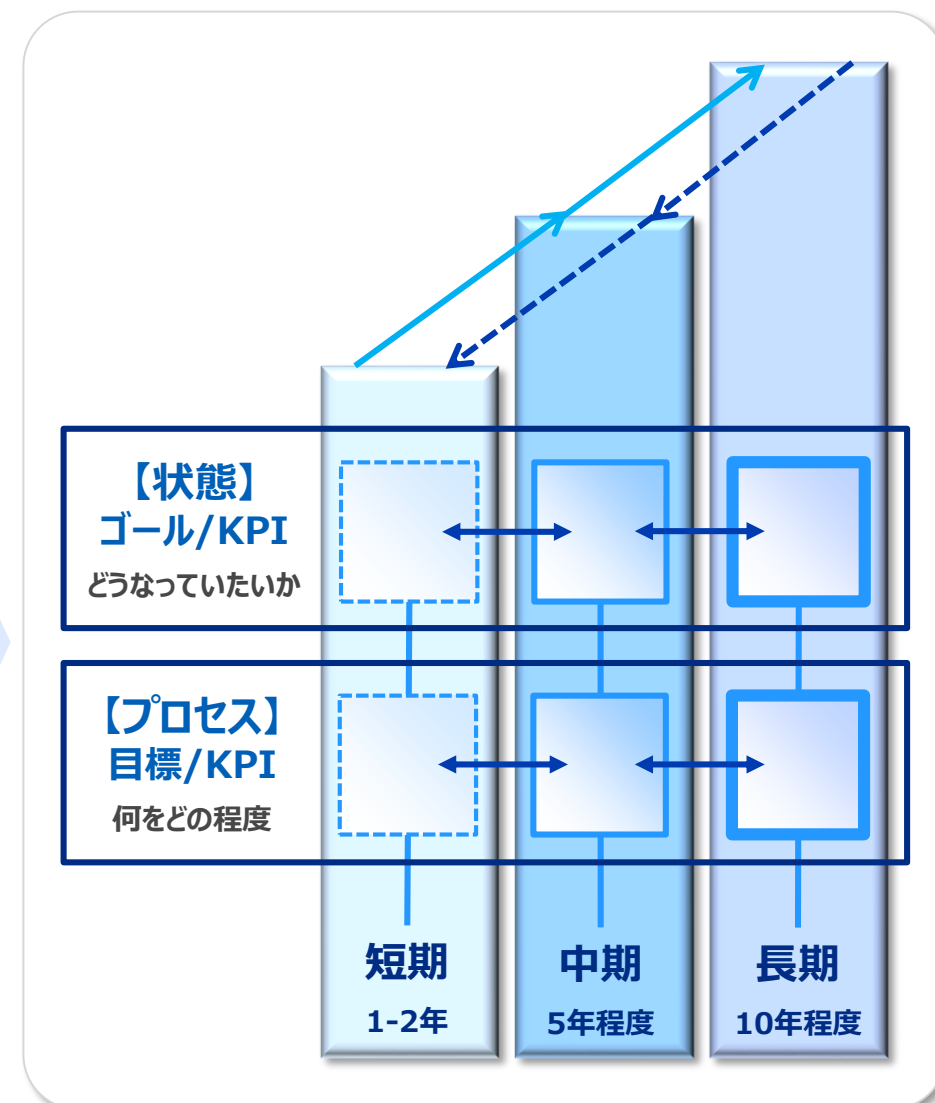
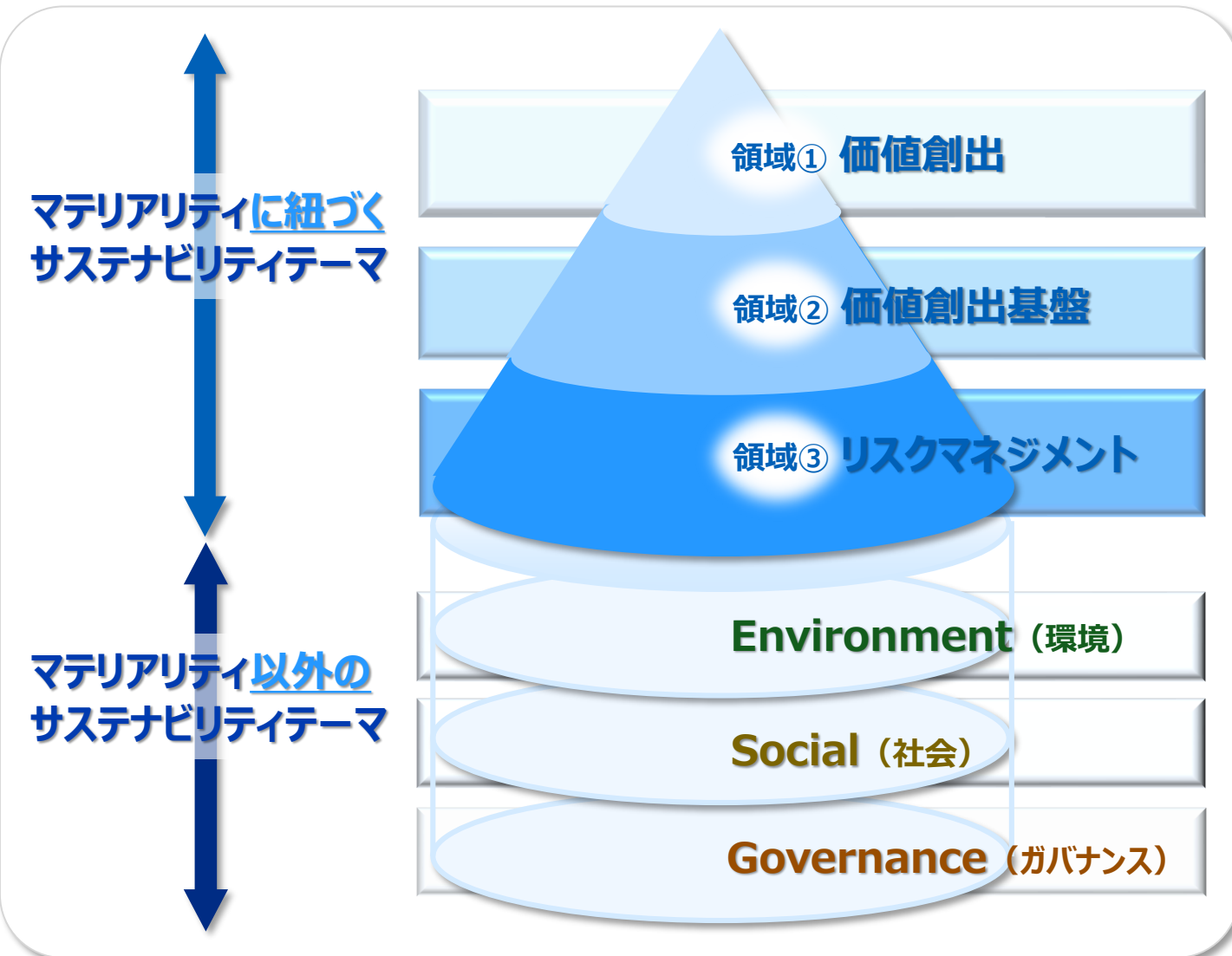


#### ◆マテリアリティ以外のサステナビリティに関わるESG課題への取り組み

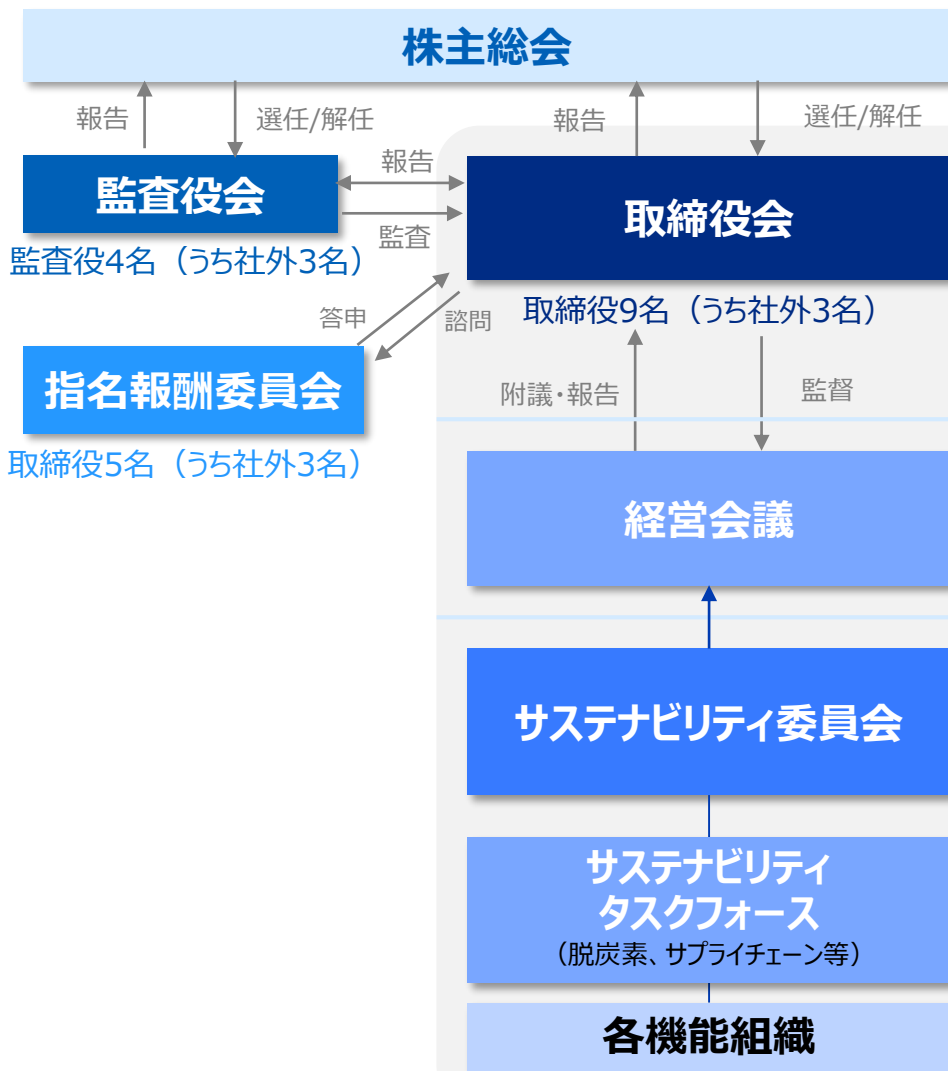
	課題	取り組み
	<ul style="list-style-type: none"><li>* 水環境の保護</li><li>* サーキュラーエコノミー（循環経済）への貢献</li><li>* 化学物質による環境汚染の防止</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>* 事業活動における効率的な水利用</li><li>* 廃棄物の削減と再資源化</li><li>* 環境に影響を及ぼす可能性のある化学物質の使用削減</li></ul>
	<ul style="list-style-type: none"><li>* すべての従業員・関係者が心身ともに健康で安全に働く環境</li><li>* 自然災害、感染症などの危機への強靱な対応力</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>* グローバル水準での労働安全衛生マネジメント</li><li>* 職場の人権尊重、あらゆる差別の撤廃とダイバーシティの推進</li><li>* 危機管理体制の強化とBCP整備</li></ul>
	<ul style="list-style-type: none"><li>* 社会的要請に応え、その存在価値が評価・期待され続ける企業経営</li><li>* 健全な企業文化とビジネス慣習の浸透</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>* 取締役会機能の発揮（独立社外取締役3分の1以上選任、取締役のスキルマトリクス）</li><li>* 理念の浸透とコンプライアンスレベルの継続的な強化</li><li>* 情報セキュリティの強靱化</li></ul>

◆マテリアリティを軸として網羅的に果たすべきテーマを抽出

➔ テーマごとに短・中・長期で目標・KPIを確認



## ◆ 価値を創出し続けていくための体制



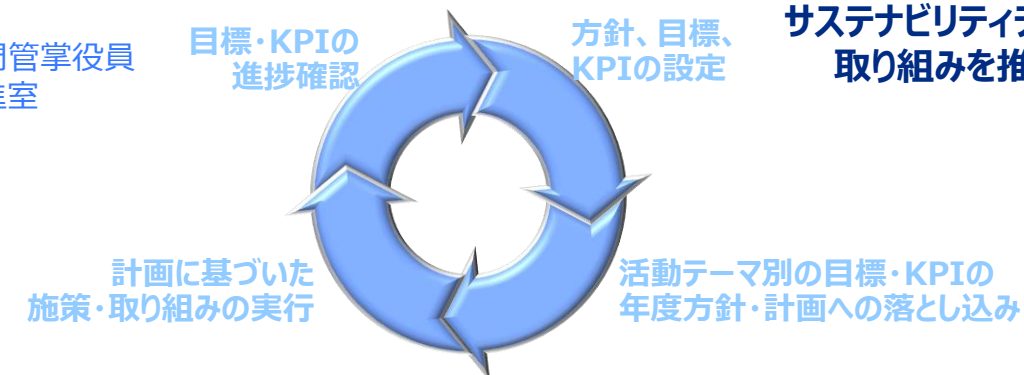
氏名	役員区分	社外	特に専門性を発揮できる分野 (◎主なスキル/○その他のスキル)							指名報酬委員会
			企業経営	営業・マーケティング	研究開発	製造・品質	財務・会計	法務・リスク管理	海外経験	
山田 保裕	取締役会長		○	○					○	◎
清水 隆史	代表取締役社長		◎	○			◎		○	◎
光畑 達雄	取締役執行役員		○	◎						◎
井村 洋次	取締役執行役員		○		○	◎				○
笹森 建彦	取締役執行役員		○				◎	◎		○
守屋 学	取締役執行役員		○	○	◎	○				
森田 研	取締役	○	◎		○	○				○
武田 厚	取締役	○	◎	○				○		○
米田 道生	取締役	○	◎					○	○	○

当社取締役のスキルマトリックス (公表済み)

サステナビリティ方針の策定  
サステナビリティ全体のモニタリング等

サステナビリティの全社戦略策定  
マテリアリティの策定・定期的な見直し

サステナビリティテーマへの取り組みを推進、管理



## 2016年

### 【変化の起点とする年】

- 免震交換改修、再発防止策の徹底、本業収益確保
- 基盤立て直し、信頼回復、企業風土の改革にエネルギーを注力



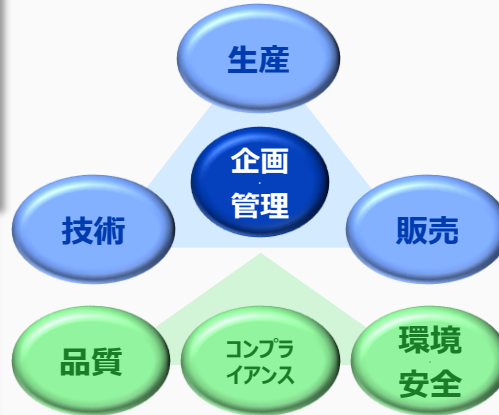
S G

従業員、役員が当社のあるべき姿を議論し、新たな理念を策定【パーパス志向の原型】

## 2017年

### 【新たな始まりの年】

- 新たな理念を制定
- 機能別組織体制をスタート
- 社屋を移転、新本社機能稼働
- 硬質ウレタン事業・化工品事業を譲渡



G

事業本部制を撤廃し、各機能連携による独自の付加価値創出を志向【マテリアリティの原型】

## 2018年

### 【本物の中身づくりの年】

- モビリティを事業の中核に据える新たな経営体に
- 三菱商事との資本業務提携を発表



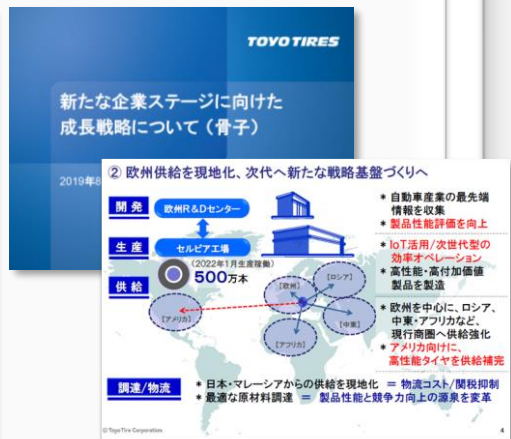
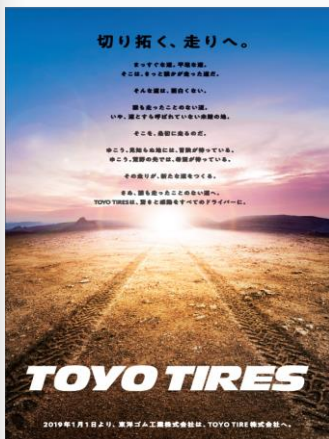
E S G

自動車産業の変革期を見据えた異業種との提携（三菱商事）【持てるリソースの最大化】

## 2019年

### 【第二の創業の年】

- TOYO TIRE 株式会社 に社名を変更
- 新たな企業ステージに向けた成長戦略を策定
- 「まだ、走ったことのない道へ。」を新ブランドステートメントに

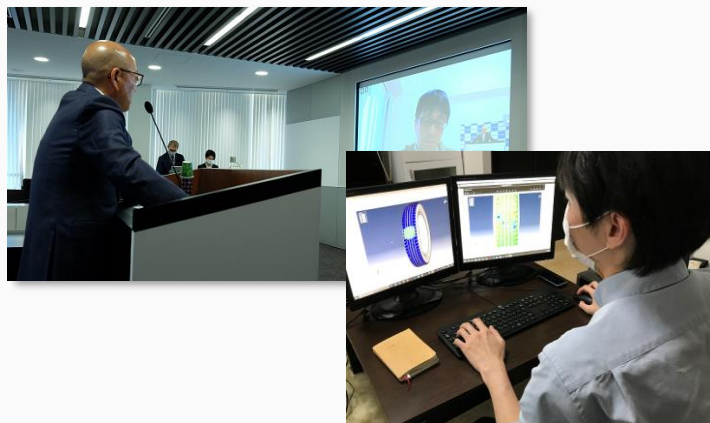


社名にTIRE (タイヤ) を冠し、自らの使命と誇りを社内外に動機づけ

## 2020年

### 【新しい道づくりの年】

- 若手・中堅社員を中心に組織横断的に中計策定に着手
- DX本格始動/ESG推進/人財の各基盤強化に向けた準備
- 新型コロナウイルス感染症に対する機動的な対応



従業員と関係者の健康と安全を最優先に、完全在宅勤務/リモートイベント等を率先

## 2021年

### 【新しいステージへシフトする年】

- 「中計'21」をスタート
- サステナビリティ委員会を新設
- 成長・挑戦を促す新しい人事制度を導入
- 社員エンゲージメントを企図した意識調査の実施



***TOYO TIRES***